一本小笠原流鷹之書卜題

鷹式法之書

全

登錄第2993號
第 VIII. 門
第 3 部
記號 D.
函架
平野圖書箋

UNIVERSITY OF KANSAS LIBRARIES
MS
C181
RARE BOOKS

平野碧山館藏

一

鷹ニ付而之式法之事

鷹を撃て貴人に見せ申事度々に無之を
法せ候ハ撃ノ手ハ恥なし候ハ先縁にて口餌を
ひ勢へしたれ其時の内に法へ下
縁にて其ハ法ハ度々に法へ
不若い縁にて策法拔尾なとを加れ法へ
いかも鷹を尋常にありひて法上へなとりたの
孫を立右の縁を変て策にて羽をかき法へ
ひ足緒と引法鷹ハ西と見を申候て為鷹を目

小然ニ後ノ手別先ヲ見ルヲ扨後ヲ見ルヲ下ニ策
也ヲ尾ヲ押ニ入ニ然ハ目ハ小なり

一 鳥座と網然と紙人ヲ見ルヲ見ルヲ網然ヲ見ルヲ
後ノ手ヲ見ルヲ消なり

一 鷲ヲ人小消ヲ見ハ先策ヲ出シ其後鷲ヲ
右ヘ右ヘ口ハ小ヘ鞢ハ緒ヲ云ハ鞢ヲ取鷲
ヲ出ハ此ニ繋ヲ出シテ其ヲ鉢紙ヲ云ハ其
後鷲ヲ紙後也黄鶴ハ人なるハ上手ヲ消下ヲ
乃人ヲ云ハ下ノ手ヲ云ヘシ馬ハ如ク鹿ノ

扨波ニ臣右ヘ為ヲ披ニ志ニ為ニ請取ニ臣ハ右ヘひ
らく也為ニ又請ニ人鞢ヲ指て出ニ鞢ヲ不及
傳袋ヲ渡し其後鷹ニ紙渡ニ成ニ

一 鷹請ニ小無ニ鞢ニ臣ハ右ヘ銀ヘ其ヲ寄て請取
鞢ニ向く渡ニ上臣下臣の積あるへし渡ニ志ニ鷹
乃ニ其ニ思相小ニ其ヘし

一 人ニ鷹ヲ渡ニ急ニ事ニ不ニ小臣ニ鞢ニ御鞢ニ置
と申ニ出て其後鞢ニ小鞢ニ至ヘし大鷹七く
さり見ん鷹ハ五くさり小鷹ハ三くさ足なり鞢ニ

鞢と結付て舟寄れ架の端に掛て置之

一 繋て御鷹の架れ有へ他人ハ左右なく寄子細あ御支なり

一 置体の鷹と繋支法ハ架と結其木の本ハ御鷹の右ハ左の方ハ小ハ三ツ之物鷹と繋に八三ツ之小法なれて来れ事なるへハ初となさ方の大結と其事なへ川入て大緒の先ハ之を結とうすして置之

詰ゆてひ方やすとへ鷹ハ法なくと云ふ口傳あり

一 主人の御鷹ハ繋へき支鷹れ左の方ハ大結

一　先ト雖モ我等ト六等ト
一架小艇ニ乗組ミ候ニ付
ヤ艇ヲ繋ギ候ニ六等ト
等ト雖モ本船ノ方ニ
一架小艇繋ギ候ニ
ヲ繋ギ候ヘハ
ヲ繋ギ候ヘハ
ヲ繋ギ候ヘハ

一 鷹を見をんとて化家より客人来給ふ支も是
いかれ城賤き者に撃させて来り給ふとも縁操に
並べ候ふ所家に請して可並撃ものも斟酌せへ
かゝるまで

一 ひらく鷹鳥屋おこなとハ大緒の先を指にまとへく
おもしへ亦餌袋にも多々残留をとくく知る
らん人小あきらめて去志けるを見し

一 鷹の足緒残寸弓の絃を二ツ来切ける故に其
長さ三十八三寸五分なり

一 餌袋と人は方へ出れ春夏秋冬に於ける事
春夏ハ魁の頃秋冬ハ鳥の頃を出すり

一 小鷹は餌袋を何時も鳥の頃を出れり

一 こうと餌袋に指夏こうは其しろの方を我
為に付るゆゑ小心ゆゑ指すり

一 鳥と餌袋に指くて鷹道ゆゑは鷹道の
付らしき様に出すなり

一 餌袋にこうと指様雄ハ尾は裏の方と表(指)
雌とこうつかけて尾の表と見て指に指ちゆ

一 鶯は雉を鳥さ朱附にして出夏を鳥葉は木乃
夏松乃枝梅の枝なるべし別は木に付へるに
鶯の雉を八切とはいまとさくといふ事なり

一 野林少て鶯は雉地に出て出夏姐ありと
いふ事板は上に打发を一枚重く甚上に雉を重
て出之打发も板もなくしたるしかはも

一 谷越又川越に見掛けといふを下鳥をへし
鶯道は前に礼を後に也祖遠にて壱もこてかはハ
策を上て禮をみさに過ぎなり

一 弯を清取支青弯なるハ喚総を用意而持
下し小弯なるハ艤を用意して持へし弯成
請ひて右の袖より艤をそも喚総をそも引き抑し
て大緒の先を指へし是ハ自然に馬のりた
らんとき弯をこゝを出しかゝる先の用心なり

一 我より上の人姓撃たる弯を清取支大緒乃
先を右の手下ゟ取て其後弯を清ひ下し
我より下手姓人なるハ右の上より大緒姓を成
取下し我も大緒の先を右の手に一ツ入れて

鷹擊ヲ入さなり又敵より上ハ人なるゝ大結の
先を我勇より引流し鷹を先指おし兼ると
我より下ハ人とは大結の先ハ若ハ又直し同要
も如ク引なり

一 鷹ハ鳥を然ル支田鳥を八縄にて然ルなり心の
鳥ハ敵にて然ルなり口傳有

一 舳取ハ支付技ハ来口傳ると

一 狩杖の尺ハ口傳ると

一 鷹野の調名ゝ之口傳

一太請取相大清右ニ遣豪ノ末ニ右ハ此ニ
一かゝかゝかくたのもして総ハ中務ニ引之
請取昵大総とこひて請ハ支なり

一 彎を治ふ事ハ仁德天皇四拾三年十一百濟
王より彎に書を添て獻しまゐり和泉王にて
御狩ましより始る又同し御宇五十一年に
彎書并秀奇ゆ彎を獻ふ使ハ飛僧ハ
ことしこれ後世之ゆ帝拯獵あまた度なり又
清和帝ゆ御宇に高麗より秀逸ゆ彎ゆ
獻ふこれ後又彎ゆ吳朝越前ハ敦賀に
来ル其名を朱光と云彼朱光に時ゆ帝より
政頼を遣治ひて異城ハ流ル処ゆ彎云ゆ疑惑

とそこさ志めなふに彼等甚書たと見て無圖
小彼書ありと敬きよみひらく夏なし政れ
謀りて孤竹といふ女と道ル甚時寄書れ要
次十八箇秘法亦六姓口義甚分悉ク傳授
しそけ也八和朝の鷹れ傳ハ政頼と始とも
一 才鷹と七くすりに繫夏七曜と表分せる也
一 兄鷹とあくすりに繫夏五星なり
一 小鷹と三くすりに繫夏八三月なり此旨を肖
くゝ通しに故実なり

一 才鷹乃大緒ハ六尺又寸長米六寸長胡桃緒三寸ニ付ハ草黒草也秋ハ御免草なり

一 兄鷹桃大緒ハ五尺又寸長米又寸長胡桃緒ハ二寸八分なり

一 小鷹桃ハ四尺又寸長米二寸六分何も長口傳也

一 大緒の長の事 莫鷹ハ淺黄鳥屋鷹ハ染分山鳩ハ無赤紅是ハ鷹ハ黒草桃是結指事自訓先とかいまゝ小名之何成口傳也

一 架桃器乃事 高サ四尺一寸長サ七尺五寸又ハ六尺

八寸又六尺二寸切目二寸八分双方端四寸余充ハル之
大サ六寸足ハ高サ六寸長サ三尺廣サ五寸重ク
三貫六百目又四貫目ハ七ツ又ハ五ツ又ハ足竪
ニ足一通リなるとも好坪ハ九ツ又ハ七ツもとなりなり
一足革ハ寸ハ彎ハ八寸先彎ハ七寸也
一餅代ハ高サ六寸二分胴乃大サ三六寸腰皮ハ
麻のあし皮をもるこ口ハふもべ革まてぬいくるむ之
一喚餅指乃夏秋冬ハ雌雲隻ハ雄名とも思ひ
つまといふなり

一餌袋の名とハなるしたといふ也

一鞭姓寸の夏二尺八寸卅内一寸瓢花なり

一鶯よりと吹ふ先徒先より所寄へ吹越所寄

より徒先へ吹て甚後兵へ吹通し

一着鶯姓夏鳥屋鶯姓惣名なり四月一日より鳥

屋へ入八月一日小鳥屋と出ス

一白尾の鶯姓夏鴻の君志ゝもとにて鈴付故

二枚續なり是去野へ入かりなりそこなく

續へかゝ次口傳なり

一 鸞毛所ハ夏目ハ鼻毛ニハ乱頭早(ランシ)と云
丹角根の毛ハ物言付と云胸ニ餅包と云項ニひき
力ハ毛と云頸ハ毛ニハ持盲ハ毛といふ毛とも
縄より縄へ寄ふり毛なり又狭衣とハ申ハ毛ニ
いふなり又裏ハ所ハ毛とも狭衣と云夏あり
異服(ハイレ)鳥ハ毛とハ肩ハ辺なり又舟羅ハ毛ハいたて
ふ所の毛ニハあまおかい毛と云又尾助ハ
しと云絵隠しとハ鈴付ハ上なり

一 大鸞ハ尾ニ屋形生ハ尾とハ生ハ八文字ニ切

なるを云さるれを八絵付と云

一尾羽乃名れ支一ツ絵羽より七ツ絵羽それより八
洗さめまきれ乃ち四ツ毛と云絵付 舟尾鳴尾
鳴羽刀尾石歩と云又十三尾乃鶴ゑ飛名八
口傳ゑ同物衣米毛口傳ゑ

一架布ゑ淺黄材ゑ毛染物なり上一布を横布
にしそ下の冊八五冊なり枷きまを袴乃ゑ
里姓ことくにして竹を中心ゑ入く架ゑ付へし
紋八家姓紋を付へし

一 浩架は本く惣木梅也本木とハ我たよすると
高サ我乳通りよ浩之大鷹ハ末木小鷹ハ本木
なり但本鷹ハ本木兄鷹ハ末木なり

一 外架は夏帯は架よりも二るゝ人しか架
とゝ云又ハ野架ハ云也

一 泥板は夏梨の木と用法なり

一 鷹部屋は架なゝ高サ三尺五寸後口の廣サ二尺五寸
前なゝ三尺五寸四尺とゝ不苦なり

一 鈎架は夏一方ハ拄へ浩付て又一方ハ上より縄を

不ケ縁ニ架と浩さてその縄とすのこ四ヶ所ニ
浩ケ入し板数ヲ八ヶ所ニ成ス入して表ニ付通し
口傳無し

一 鷲と繋ニ泊リ豆体ハ口傳ヲ

一 税言ハ時繋括ニ口傳有

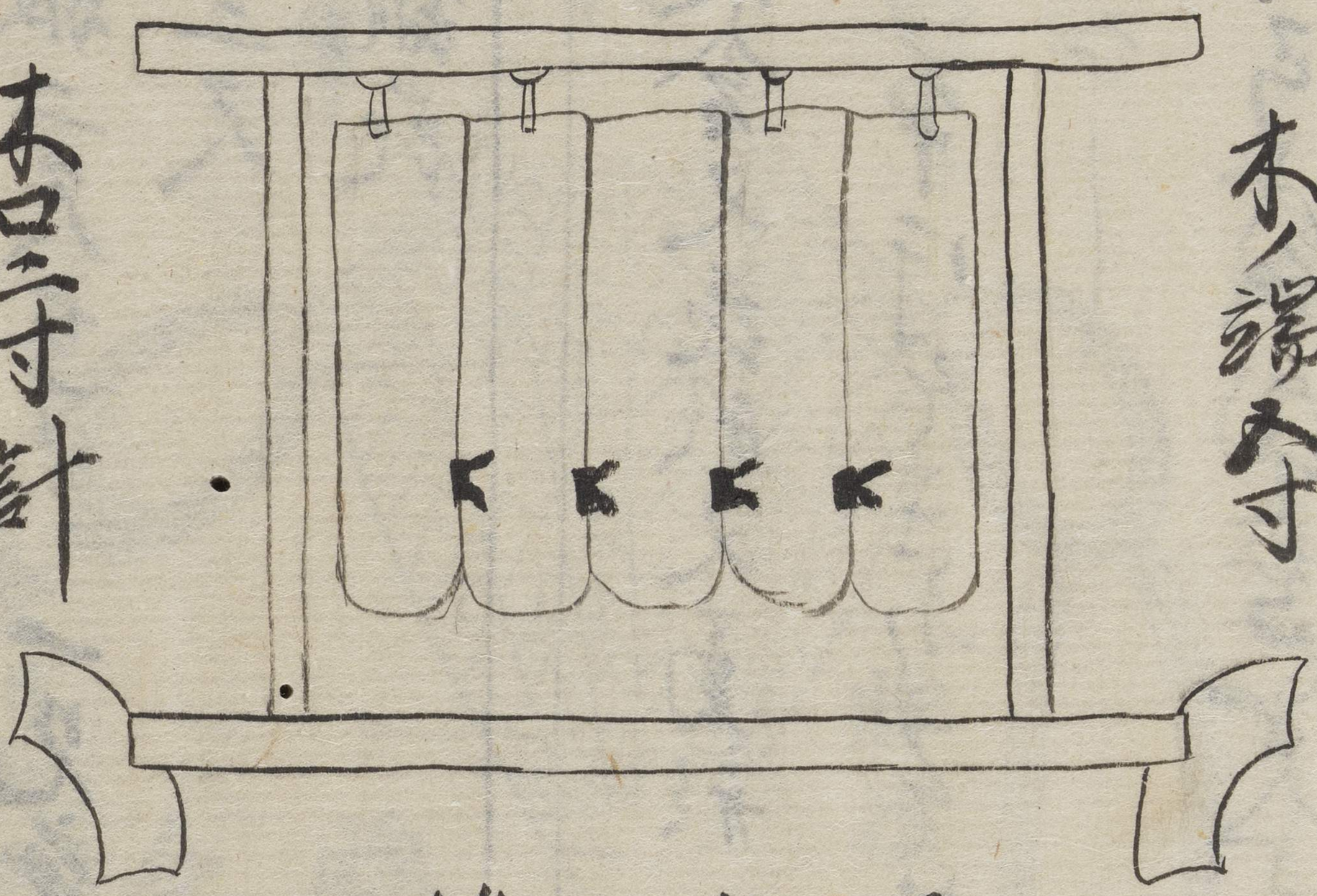
一 高麗鷹繋ハ口傳

一 苑道ハ時繋括付リ架浩ハ車口傳有

角鹿外架

惣ノ高サ四尺

又寸但足ニ



木ノ端又寸

木口二寸計

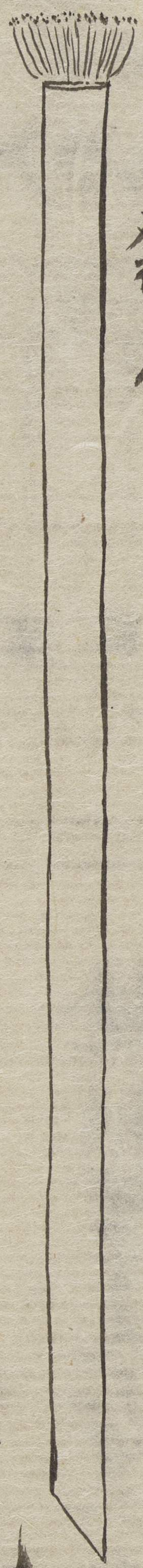
臺ノ長サ二尺五寸

纈纈黒革

大轂糸ト云

縫明四寸又三寸二分

一大亭　長拾壹間二尺八寸
一鶏小屋　長三尺
　　高弐尺



一水舎又ハ飛石又ハ敷石
一芝生
一植込
一花壇
一築山
一池
一小川
一井戸
一垣
一門
一石燈籠
一蹲踞
一飛石
一敷石
一植込
一花壇
一築山
一池
一小川
一井戸
一垣
一門
一石燈籠
一蹲踞
一飛石
一敷石
一芝生

小鳥の頭と鬼の首と切て付る義あり中にあり八、
其真似をして結ひ准へり

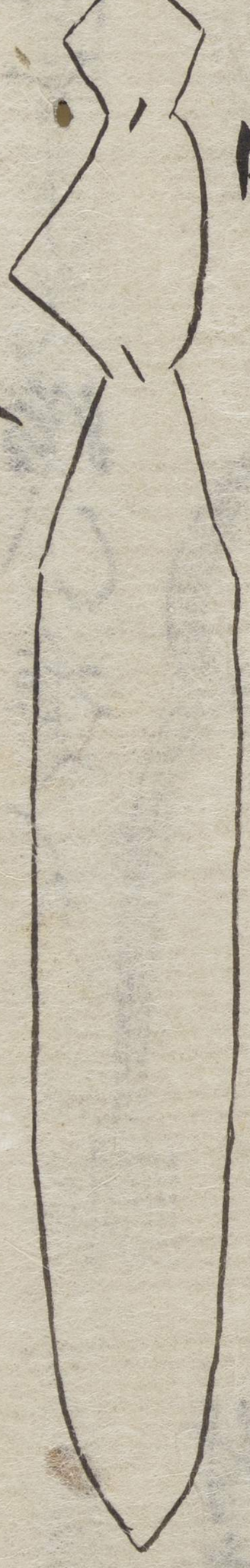
餅袋



長サ六尺五寸二百三十五

一大鷹の足草七寸六分
一隼の足草七寸
一鷂の足草五寸
一兄鷹の足草六寸六分
一同兄鷹の足草六寸
一兄鷂雀鷂抓八卅内を
しらふてはへしその外次第おもりくらへし

角鷹足草
山形に山峯形に云



てゞりかる

八キ草又タヲ井に云

繋緒氏
根助緒氏



一鈴板

鈴持
鷹よりて大小あるへし



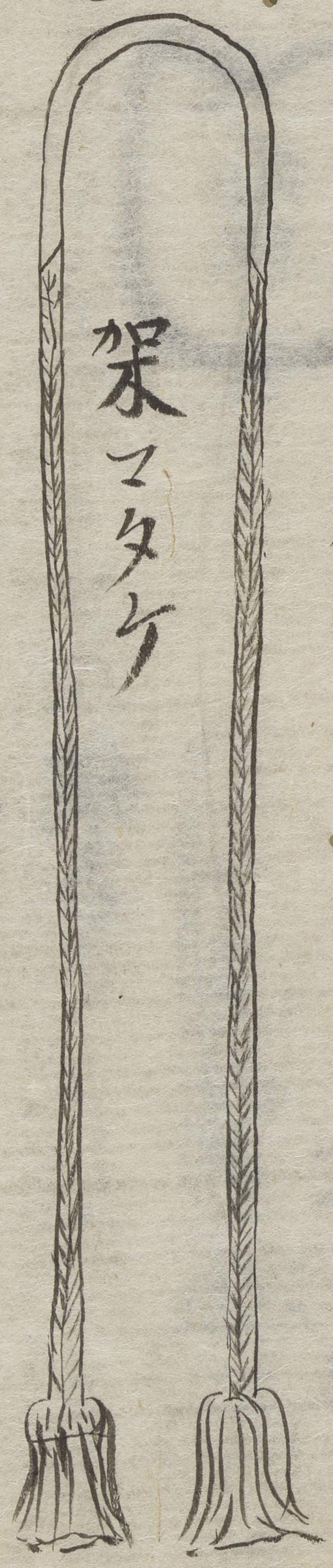
旋子



二行り

結テ全一米但シ鷹よ寄へし

一條蒼鷺ハ五尺二寸五尺二寸又五尺五寸ばかり七尺
五寸まで也もとる總二寸見鷺ハ四尺三寸或ハ六寸又
五尺八
五寸ニ也



總ハ寸八分
鷂ハ四尺五寸或ハ八寸二分ニモ總ハ一寸五分ニ其外鷺
おて長短あり

一先大鷺ハ大緒五尺五寸見鷺ハ五尺五寸其外ハ
少ツ短くて其隼も大形同前之

艤筒

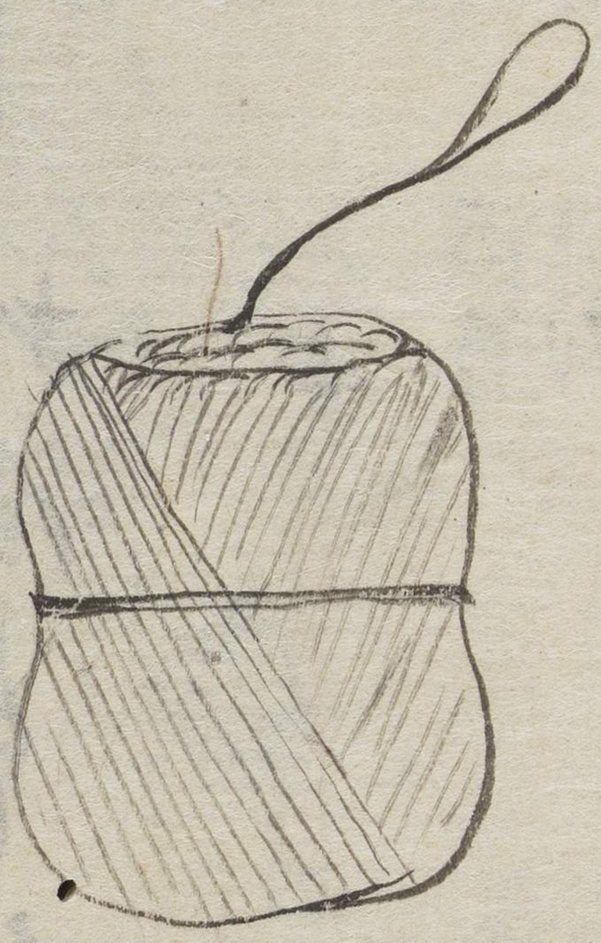


一 喚縄廿上組ゝ一經緒廿弱ゝ十五組より二十弱ゝ四十二弱ゝ定ル法なし

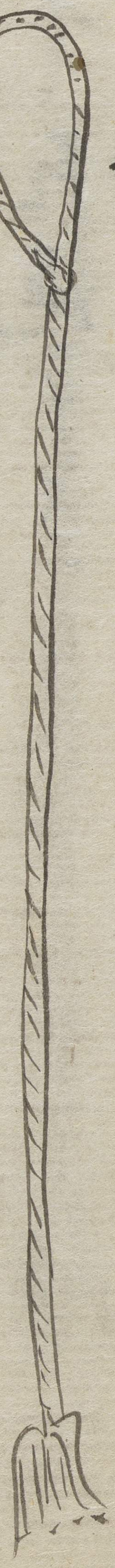
一 小鳥縄大遣り縄長サ八尺

一 遣り縄ハ三ツ合縄細さし縄ゝ一方

經緒法



蛇口氏云



坪

一 早乾ハ夜ハ一丈又二尺或ハ七尺
五寸又ハ雑ク二尺五寸ニ扣滝ヲ以ハ

小首
山忘
山入
高樓頂ノ毛ヒ
眼門
カワウ
眼掩
乱弭早
裝付
印毛



持香
小松原 燧羽
山迴 三毛
兩羽異
白狗
サコロニ

七羽異
呉羽
凌羽

散雪 霜山
風流
折目

万星
羽授
長小大
ヒヤク花

青葡
受飼

風切
付持
水通

七並
重鱗 ヒホ子毛
色苔 毛十三脛

ホウシコ毛 蜘手別
ヲスケ
ウスシ

撼爪
鬼平
裏ノイホ
夕拳
捕居又烏カラミ
赤ノ爪
又付喰

一生ノ切格ニ依テ名ノ支

大ツカイ

サウモリカメ

ヒスイ

コツカイ



一ツ羽風切モ

七ツ羽

折目

ホロ同

徒先同

鈴付

助尾

鳴羽イニ鳴尾

鳴尾イニ鳴羽

紫川小石歩

石歩

七ツ羽

六ツ羽

五ツ羽

四ツ羽

三ツ羽

二ツ羽

一ツ羽

ランシ

ヲスムノ

ホロ同

七ツ羽ト ホロノ

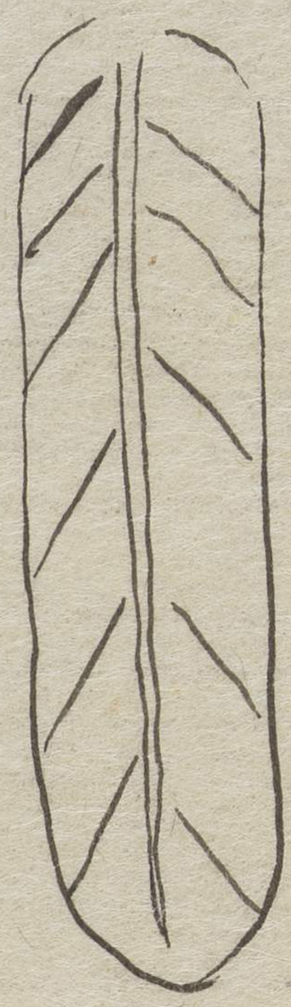
間ヲ折目ト云

シノア尾



コ子ヤカタ尾

コヤカタ尾



大ヤカタ尾



一いゝ色とも斗ハ秋之



こむるとゝ云ハ夏之

終